

都城北諸文化情報誌



都北社会教育協会文化振興部会

都城市教育委員会文化課

三股町教育委員会生涯学習課

山之口町教育委員会社会教育課

高城町教育委員会社会教育課

山田町教育委員会社会教育課

高崎町教育委員会社会教育課

※「おてんじょだけ」とは、たかむねのみね高千穂峰のことをいい、「御天上嶽」と書きます。みやこのじょうぼんらなむかしから都 城 盆 地 内に住んできた私たちの祖先はこの山を「父なる山」とあが崇め、こう呼んできたのです。

1 第2号の発行にあたって

皆様のご協力等をいただき、なんとか第2号を発刊するはこびとなりました。今回は「中世のお城」を取上げてみました。一見ただの山に見えるところが、実は600年ほど前には戦いの場となったお城であったということがよくあります。みなさんのお近くに結構残っているそのお城の跡をいくつか紹介いたします。

ご不明な点やわかりにくいことなどは、お気軽に最寄の教育委員会へお問い合わせください。

2 文化財情報トピックス 「中世のお城」特集

中世のお城というのは、今から400年前、またそれ以前につくられたものです。お城といえば、姫路城や大阪城のようなものをイメージするかもしれませんが、中世のお城はそういったきらびやかなものではなく、あくまでも敵から身を守るためだけにつくられたもので、建物もわたしたちからみると粗末なものばかりです。しかし、このようなお城があったということはすごく大事なことで、当時の治めていた人々の暮らしぶりや城のつくり方などを教えてくれる大事な文化財なのです。みやこのじょう都城北諸地区でもそういったたくさんのお城がつくられ、合戦に使われました。特に1599年に起こった庄内の乱という戦いは、島津家とその家臣であった伊集院家との戦いで、都北地区を大激戦地にした、ものすごい合戦でした。島津家はこの戦いをやっと終えたそのすぐ後に、関が原の戦いが始まり、大変なときでした。これらの城はいま、そのほとんどが残っていますが、ただの山かな？と思うようなところばかりで、ちょっとわかりにくくなっています。今回はそのお城をいくつか紹介します。みなさんの身近にもこんな昔のものがあるんですよ。



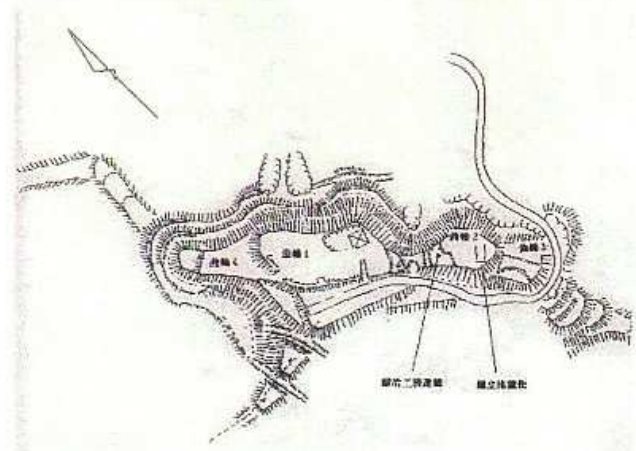
①木場城（高崎町）

木場城（八巻孝夫作図）

このお城は高崎町のとどろ轟という地区にあるものです。おおしづがわ大淀川沿いのこたかい小高い山のてっぺんにつくられています。この大淀川にむかって堀などの敵を防ぐものが置かれて

いました。戦国時代は船を使ってものを運んだりしていましたので、このお城はそういった重要な場所を見張るためにつくられたのかもしれませんが。今のところだれがこのお城を守っていたのかははっきりしていません。

②三俣城【松尾城】(山之口町大字花木)



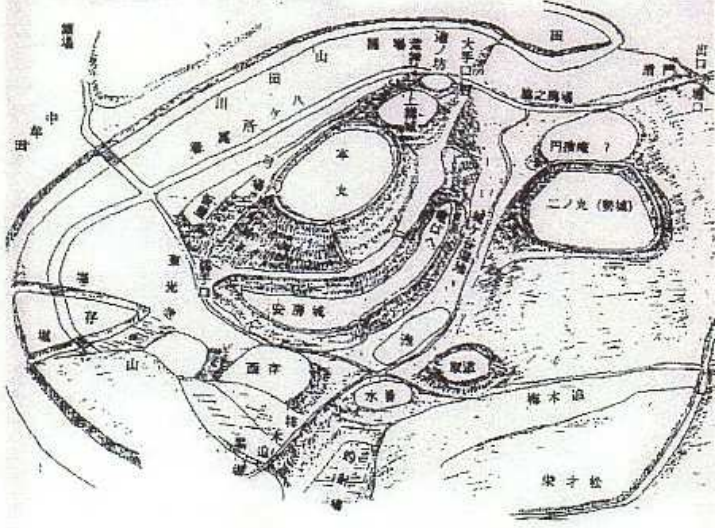
今、あじさい公園になっているこの場所には、もともとお城がありました。このお城は今から約600年ほど前の南北朝時代にはすでにあつたことが知られています。ここでは公園にする前に発掘調査がおこなわれ、建物のあとや刀や矢をつくったようなあとなどがみつかっています。また、戦国時代の中国から運ばれたお碗などもみつかっています。

三俣城 (八巻孝夫作図)

③山田城 (山田町役場周辺)

今の山田町役場・運動公園ぜんぶがこのお城になります。650年ほど前につくられたといわれています。1599年に起きた、「庄内の乱」という、島津家のお家騒動では、ここで激しい戦いがおこなわれました。1615年、徳川幕府から、一つの藩のなかに一つしかお城を認めないという「一国一城令」が出されたとき建物などが壊されましたが、ここには都城を治めた島津家(北郷家)の地頭の役所がおかれました。このお城の堀のあとが残っています。

山田城復元推定図



④梶山城 (三股町梶山小学校裏)

梶山小学校の裏山全体が梶山城です。今から約600年ほど前につくられました。麓には都城を治めた島津家(北郷家)の3代目とその弟のお墓があります。1599年の「庄内の乱」のときには重要なお城の一つとされましたが、ここでは戦いはなかったようです。しかし、そのおかげもあってかその全部が残っており、お城の複雑さがよくわかる、とても大事な文化財です。このお城をかけた江戸時代の絵図も残っています。



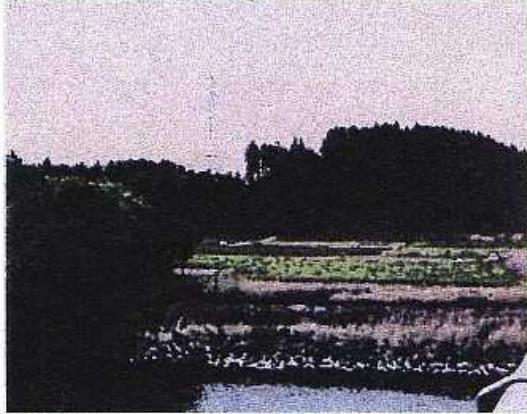
梶山城 (八巻孝夫作図)

⑤下之城 (高城町有水)

一股下城ともいわれ、応永のころ(1400年ごろ)に島津豊久という人(島津氏8代目の5男)によってつくられました。西側にあたる野尻

方向からの敵（伊東氏）を防ぐためのものです。明應4年（1495）には伊東氏のものとなり、城主は福永丹波守で、「三股八城」とよばれるうちの一つになりました。文禄3年（1594）、京都の公家・近衛信輔が坊津（鹿児島県坊津町）へ流されたときには、この城にきて泊まっています。

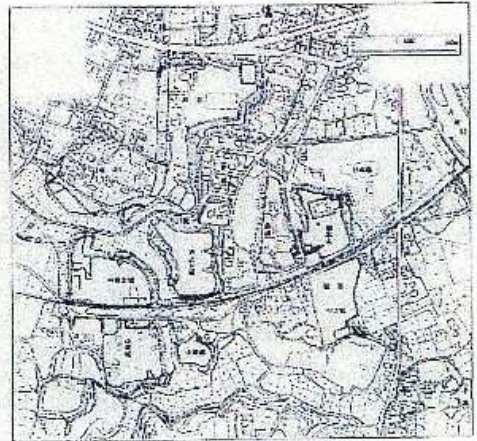
下之城



という「一国一城令」が出されたとき、都城島津家の殿様は、このお城を使うのをやめて、今の市役所・明道小学校あたりに屋敷をつくり、そこで政治をおこないました。ここでは何度か発掘調査がおこなわれています。軽石で積み上げた石垣や建物のあとなどが発掘され、中国から運ばれたお碗や、安土桃山時代、豊臣秀吉のゆるしをもらってつくったと思われる、豊臣家の家紋がはいった瓦などが見つかっています。このお城をかいた、江戸時代の絵図も残っています。

⑥都之城（都城市都島町・城山公園）

大淀川沿いにある城山公園、歴史資料館のあるところです。ここは都城を治めた人たちが中心としたお城です。600年ほど前に都城を治めた島津家（北郷家）の2代目がつくったとされています。1599年に起こった島津家のお家騒動「庄内の乱」では、戦いの中心地でした。1615年、徳川幕府から、一つの藩のなかに一つしかお城を認めない



都之城（八巻孝夫作図）

3 イベントコーナー

★「三股町・文化の祭典」

昨年オープンした三股町立文化会館で開催されるイベントです。速水けんたろう、はらたいら、中世城郭のスペシャリスト・八巻孝夫氏がやってきます！みなさんぜひ足を運んでみては！

平成14年2月9日～11日

- 第1部・童謡まつり
- 第2部・文化芸能まつり
- 第3部・元気まつり

★ 置県130年記念

「都城県～その成立と県民の暮らし～」

明治のはじめ、廃藩置県のあとに都城市を中心とした都城県が置かれました。1年数ヶ月の短い県政ではありましたが、その業績は今のまちづくりに影響をあたえています。是非ご来館ください。九州大学の有馬学先生の記念講

演も行います。

会期 平成14年2月23日(土)～3月24日(日)

開催場所 都城歴史資料館

入館料 大人210円 中高生150円 小学生100円

9時30分～17時(入館は16:30まで)

記念講演 「みやざき探訪学講座

都城県～その成立と意義について」

講師 有馬 学 氏 (九州大学大学院教授)

日時 平成14年3月9日(土) 午後1時30分から

場所 都城市中央公民館大ホール 入場無料

都城歴史資料館0986-25-8011

都城市文化課0986-23-9547



4 コラム



にせ②「こんまえはぜんぶ話を聞かんうちから出ていっもんじゃから、たまがったどー。」

にせ①「うんにゃよ、あいから走らったらよ、もう発掘はけ済んじよってよ、どげすっかち思ったがよ。」

にせ②「おいの話を最後まで聞かんからよ。そしたらね、続きをいっかすってね。こん前は土器を一つ一つ荷札をいっどきポリ袋に入れいっどこまで言ったがね。そん次はね、土器を取り終わったらね、柱の穴とかね、溝みたいなものとかがね、あるかどうか確認するわけよ。そいでね、そういうのがあろうであればね、写真をとるわけ。」

にせ①「へえー、そん柱の穴を確認するちいうのは、どげんすとね？」

にせ②「都城ではよ、黄色いボラがよくあるがね。しんボラはね、実は、縄文時代の後半ごろに霧島の御池ち知っちゃつどが、そこが噴火したときの火山灰やっどよ。ということはよ、その上に乗ってる黒土はよ、縄文時代からあと、弥生時代とか中世とか江戸時代とかの土じゃっわけよ。わかいが。じゃって、その黄色いボラの上できれいにまっすぐにすれば黒土の丸い穴みだいなのがわかるわけよ。そげんしっせえ確認すったど。」

にせ①「ほおー、そげんすればわかつとね。しかし、御池がもとは山でよ、それが4,000年以上も前に噴火してよ、そいでまたそん火山灰が黄色いボラやっちは、そいはたまげたど。んにゃこりゃいっどき待っちゃっくんやんせ。御池ずいいたっくって。じかに見らん気が済まんてよ。」

にせ②「おーい、こら 。んにゃ、またはちたど。まこち腰のすわらんやっじゃ。まー、よかろう。また会たときにでん続きをいっかせっやらんならね。」

※にせ①「二才」をこうよみ、若い人のことをさす

